

毎日新聞の連載「オシント新時代」で荒れる情報的大海（オシント）公開情報を分析し情報を得る手法）で、一月一日掲載の札幌市を舞台にアメリカの極右系陰謀論の中核人物「Q」を追い求めるルポが印象に残っている。

「Qアノン」とは、正体不明の人物「Q」が二〇一七年から投稿を始めた謎めいた文章の意図を解説・拡散する信奉者と陰謀論そのものを指す。その主張は、世界は米民主党政権による小児性愛者のディープ・ステート（影の国家）に牛耳られており、その支配から人々を救うのが共和党のトランプ前大統領だという荒唐無稽なものだが、少なくとも数十万人が熱烈に支持していると言われ、一九年一月の米大統領選の結果に不満を持つトランプ氏支持者が二〇年一月に連邦議会を襲撃した事件にも大きな影響力を与えた。

記事は、「Qアノン」の舞台となったインターネット匿名掲示板「8ch」の管理人で、陰謀論を投稿していた「Q」本人である可能性も報じられている札幌市南区在住のアメリカ人ロン・ワトキンス氏に接触を試み、周辺を取材したものだ。記事によると、ワトキンス氏は二〇一六年から札幌市に居住している。彼が「Q」であると断定できたわけではないが、世界を揺るがす陰謀論が札幌市から発信された可能性には驚かされた。



## デジタル化と儲けの理論

ネット上の荒唐無稽な言説を信じ、客観的な事実より感情が重んじられ、自らの信じたものを嘘でも信じる「ポスト真実」の時代と言われる。「Qアノン」はアメリカの現象ではあるが、新聞部数やテレビの視聴が劇的に減り、ニュースをネットに求める時代では、日本でも同様のことが起こりつつある。

新型コロナウイルスのワクチン接種を巡り、荒唐無稽なデマが流れ、信じた人が一定数いたのは記憶に新しい。不安を媒介にして虚実入り交じる情報が爆発に増える状況を世界保健機関（WHO）は「インフォデミック」と呼び、日本もそのただ中にある。

昨年四月、東京都内の反マスク・反ワクチンの集会を取材した。「新型コロナウイルスは存在しないのにワクチン接種を目的に大騒ぎしている」「ワクチンにはマイクログリッチが入っていて政府に監視される」「接種すれば二年後に死ぬ」「背後にはビル・ゲイツがいる」——言葉を失う主張だが、参加者に話を聞くと、子を思う母親や政府に対する不信感を率直に語る人々だった。

二一年一〇月、アメリカでは、フェイスブックで誤情報対策を担当していた元社員が「ユーザーよりも自社の利益を優先している」と内部告発した。情報表示の優先順位を決めるアルゴリズムは怒りを増幅し、より私たちがSNSでクリックや拡散などの行動を起こす記事を選ぶよう設定されている。怒りの行動がサイトの滞在時間を長

くさせ広告料につながる。一方、ヘイトや偽情報の摘発には消極的……というものだった。

純粋な儲けの論理が、自分の意見や興味に合った情報ばかりを共有する「エコーチェンバー」現象に拍車を掛け、あえて放置している。

◇ ◇

アルゴリズムを支配する情報テック企業により、人々の情報・感情も価格の付く商品とされる時代だ。情報集積は極端化し、活用のは非や安全性を議論する間もなく、私たちの生活・思想に影響を与える。ネットショッピングの購買傾向を分析したターゲットインテグレーションは、やがてSNS上の言動から有権者の政治的傾向などを把握して、より効果的に票を掘り起こす「マイクロ・ターゲットインテグレーション」へと進化。すでに各国の選挙で使われているという。

さらに、キャッシュレス、マイナンバー、教育のIT活用、スマートシティと、デジタル化は加速度的に進んでいく。無制限の情報収集と独占、儲けの理論による感情行動の扇動が今後、国内でもどんな結果を招くのか予想が付かない。そして、情報テック企業は国・行政と違い情報開示の義務もない。メディア側の取材体制も脆弱だと感じる。

スマホでなんでもできる時代だ。だが、便利さと引き換えに明け渡しているものは何か。改めて考えたい。

